

子どもの居場所を探しています

学校から、子どもの歩く速さで 5 分程度の場所で発達障がいや事情により児童センターや自宅で過ごせない子や課題のある子の勉強や放課後過ごせる居場所を探しています。

ちょっと放課後過ごしたり、遊んだり、一緒に勉強をしたり、好き勝手に過ごせる場所が小学校の高学年、中学生にも必要です。



コラム ～ 「馬鹿と天才は紙一重」を考える ～

皆さんは、昔からあるこの言葉を聞いたことはあるでしょうか？最近、この言葉について考える機会がありました。小さい頃、この言葉を親から聞いたのだと思いますが、単純に「学力」の事だとずっと思っていました。あまり深く考えたことはなかったのです。

先日、この言葉を久しぶりに耳にした時、改めて考え実はこの言葉はとても深い意味があるのだという事に気づきました。

有名な天才と言われているパブロ・ピカソ。そう、ピカソです。彼が描いた絵は古典的な絵から抽象的な絵まで様々ですが、中でも印象的なものとして「泣く女」や「アヴィニヨンの娘たち」という抽象画ですが、一見しらなければ、子どもの落書きと思われる事もあるかもしれません。でも、このピカソの泣く女やアヴィニヨンの娘たちは計算されつくされた手法で描かれているのです。そして、その手法は当時、絵画の当たり前とされていた手法をまったく変えた革命的な画法を「考え出したのだそうです。(私は絵には詳しくないので、興味のある方は調べてください)



でも、認められたから名画として認められそして、天才とまで言われました。もし、認められなければただのラクガキとして処分されていたかもしれませんし、天才ではなく変なやつと言われていたかもしれません。なんでも、新しいことを考えたり始める人は、最初は認められにくく変なやつと言われる事がほとんどです。今では当たり前になっている携帯電話も SNS も最初は多くの人から認められることはありませんでした。

話を戻しましょう。そんな事が昔から多くあったのでしょうか。その中で生まれた言葉がこの「馬鹿と天才は紙一重」という言葉なのかもしれません。最後にこの天才と呼ばれたピカソは、ADHD（注意欠如多動性障がい）だったことも知られています。障がいがあるからと言って、必ず大変な思いをするわけではなく、周りがその人の得意なことを認め伸ばしていく事で天才ではないかもしれないかもしれないけど、一緒に過ごしていくことができます。

ピカソだけでなく、多くの発明家や研究、開発をしている人の中にも障がいを抱えている方はいますが、本人だけではなく、まわりの理解がものすごく大切な要素だと感じますね。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんとキッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんとキッズあおき (NPO法人たんと。)

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たんと



発達障がいの漫画やテレビなどの紹介

昔から、定期的に「障がい者」が主人公のドラマや漫画がありますのでいくつか紹介したいと思います。見る事自体が辛い物語もありますが、今回紹介するのは比較的前向きに楽しくそして、地域で生きていく事をテーマとしているものです。

★聖者の行進



©TBS

いしだ吉成が主人公で、登場する主要メンバーはほぼ知的障がいのある方々が普通に生きていきたいだけなのに、それができず大問題に発展したり事件に発展してしまう、見てると辛くなるかもしれない物語で、スポンサーが降りてしまったり理解がえられず再放送もされない禁断のドラマでしたが、今年からParaviで再び見るできるようになりました。

★裸の大将放浪記

芦屋雁之助、その後ドラクドラゴンの塚地武雅が主人公の山下清を演じた作品で、実際に存在していた山下清さんの放浪記に脚色をしたドラマでした。山下清さんは発達障がいの中でも記憶力が異常に発達しているサヴァン症候群という診断がされていた方でした。諏訪に常設美術館があり見ることができます。オンデマンドでは見る事ができず、DVDをレンタルすることができます。



©Ponycanion

★僕らは奇跡でできている



©フジテレビ

高橋一生が動物行動学を教える講師役を演じた作品。劇中では「発達障がい」という言葉などは一言も出てこない作品で、本人も障がいという診断を受けている訳では無いけど行動や考え方などが発達障がい？と思わせる作品で、とても自然な姿が描かれている作品でした。この作品の脚本は橋部敦子さんで、以前草彅剛が主演で「僕の歩く道」という発達障がいの主人公を描く作品を作っています。

Huluで全話見ることができます。

★光とともに…

篠原涼子が自閉症の子を育てる母親役を演じた作品です。重度な知的障がいと自閉スペクトラム症を併せ持つ子の成長を描いた作品です。原作(同タイトル)の漫画は、バイブル的な作品として今でも読まれ続けています。



©秋田書店

★僕の大好きな妻！



©東海テレビ

今年の6月~7月にかけて、長野放送で土曜日深夜に放送されたドラマで、結婚した奥さんが実は発達障がい(いわゆる大人の発達障がい)と診断され、一緒に暮らしていく中での混乱や発見が毎回描かれています。原作は「僕の妻は発達障害」という作品で、工夫をしながら生活していく姿が漫画でも描かれています。



©コミックパンチ

★梅きらぬバカ

これもドラクドラゴンの塚地武雅主演作品。地域で暮らす中年になった自閉スペクトラム症の息子と母の物語。周囲で起きるちょっとした事件や、出来事が描かれています。アットホームな感じで作られていますが、現実には起きているリアルな風景が描かれているのではないのでしょうか。また、見る人の立場を変えることで色々な想いが出てくる作品です。誰が悪いわけでもない、誰が正義でもない、自閉スペクトラム症を抱えた家の現実です。



梅切らぬバカ

©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト